

日本農芸化学会 関東支部 2023 年度若手発案企画 第7回 天然物化学研究会「進化する天然物化学」

日本農芸化学会関東支部2023年若手発案企画として第7回天然物化学研究会を東京農業大学世田谷キャンパス横井講堂にて開催しました。コロナ禍でしばらく開催を見合わせておりましたが、本年度対面にて開催しました。天然物化学研究会は、天然物化学に関連する若手の研究者を講師としてお招きし熱い議論を戦わせるシンポジウムで、農学・薬学・理学・工学の分野に捕らわれない研究者の研究交流の場を提供することを目的としています。

本研究会では、3名の若手研究者に「進化する天然物化学」と題して講演いただきました。河村奈緒子先生は「シアロ糖鎖の化学合成研究と応用」との表題にて、実用的で応用範囲の広いシアロ糖鎖合成技術の確立について発表されました。同技術によって細胞膜の構成成分であるシアル酸含有糖脂質の合成と膜動態解析用の蛍光プローブの開発に成功するなど、シアロ糖鎖の化学合成研究と合成分子を用いた細胞膜上でのシアロ糖鎖のイメージング研究についてご講演いただきました。齋藤駿先生は「微生物が生産する二次代謝物のケミカルバイオロジー研究」との表題にて、休眠遺伝子活性化研究について発表されました。放線菌の高温培養を基盤として、放線菌が生産する熱ショック代謝物(HSM)の発見やその生産制御機構や耐熱性付与機構についてご紹介いただきました。小田木陽先生は「脱芳香族化が拓く高度官能基化天然物の合成研究」との表題にて、非環状化合物から三次元的に複雑な多環状アルカロイド骨格の効率的な構築について発表されました。本戦略に基づいて (+)-Gracilamine や Hasubanan アルカロイド類の合成研究などについてご講演いただきました。

一般・学生合わせて100名以上が参加し、盛況のうちに終了することができました。若手研究者との交流や意見交換を通じて、天然物化学の魅力や自身の研究の面白さに改めて気づく学生が多く、本研究会を開催する意義を改めて感じました。末筆ではございますが、講師ならびに参加者の方々、開催・運営にご協力いただきました皆様に深く感謝を申し上げます。

2023年11月18日 若森 晋之介

開催概要

日時：2023年11月17日（金）13:00
会場：東京農業大学横井講堂
事務局：矢島 新(東京農業大学生命科学部)
後援：日本農芸化学関東支部

13:00～13:05

開会の辞

若森 晋之介

(東京農業大学生命科学部)

13:05～14:05

「シアロ糖鎖の化学合成研究と応用」

河村 奈緒子 先生

(岐阜大学糖鎖生命コア研究所)

座長：若森 晋之介

(東京農業大学生命科学部)

14:10～15:10

「微生物が生産する二次代謝物のケミカルバイオロジー研究」

齋藤 駿 先生

(慶應義塾大学理工学部)

座長：藤巻 貴宏 先生

(東京農業大学応用生物科学部)

15:10～15:30

コーヒーブレイク

15:30～16:30

「脱芳香族化が拓く高度官能基化天然物の合成研究」

小田木 陽 先生

(東京農工大学工学部)

座長：齊藤 竜男 先生

(東京農業大学生命科学部)

17:00～

意見交換会

(裏面につづく)



講師 河村 奈緒子 先生



講師 齋藤 駿 先生



講師 小田木 陽 先生



座長 藤巻 貴宏 先生



座長 齊藤 竜男 先生



講師と座長の先生方



コーヒードリンクの様子



講演会会場の様子